第８２号
2021年 8月1日
発行

同推くん

発行・編集
海蔵地区人権・同和
教育推進協議会広報部
事務局地区市民センター内
電話　３３３－８７７０

「無意識の偏見」と「無意識の差別意識」

海蔵地区にお住まいの皆様におかれましては平素より海蔵地区人権・同和教育推進協議会の活動にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

新型コロナ感染状況は今年になって衰えるどころか、感染者数は増加の一途をたどり、三重県は5月7日に「まん延防止等重点措置」を発令し、5月31日までの期限で適用が決定されました。5月28日にはさらに6月20日までの延長が再度決定されました。これを受け、6月7日に予定しておりました当協議会の本年度総会はやむなく中止とし、昨年に続き書面による決議を実施しました。その結果、本年度の案件はすべて承認されましたのでご報告申し上げます。

まさかこのような状況が2年続くとは想定しておりませんでした。新型コロナウイルス感染終息の頼みの綱であるワクチン接種はまだしばらくかかりそうです。当協議会の行事は暗礁に乗り上げたままですが、何とか走り出せるよう舵を切りたいと思っております。本年度もどうかよろしくお願いします。

最近「無意識の偏見」という言葉を耳にしました。私たち誰もが持っている偏見です。例えば「Ａさん一家は夫婦共稼ぎです。職業はトラックの運転手と看護師です。二人の年収はどれ位あると思いますか。」という質問に皆さんはどう答えますか。いろんな背景を考えながら年収を想像されたのではないでしょうか。実はこの夫婦、トラックの運転手は奥さんで、夫が看護師だったということです。トラックの運転手は男性、看護師は女性と思い込んでいませんでしたか。年収を当てるよりこの事の方が重要です。このように気づかないうちに持ってしまう見方の偏りが「無意識の偏見」です。例えば「男は仕事、女は家庭」という無意識の偏見を持っていると正しい判断が出来なくなり、女性の社会進出にブレーキがかかってしまいます。私たちは「無意識の偏見」を絶えず意識する必要があると思います。

ＮＨＫ・Ｅテレの「バリバラ」を見たことがありますか。身体や心にハンデキャップのある人たちが、自分たちの思いをぶつけるトーク番組です。ここで時々使われる言葉が「無意識の差別意識」です。例えばパラスポーツ競技で義足のアスリートがトラックを駆け抜ける姿をみて私は感動します。障害者がけなげに頑張っている姿に感動したのか、障害者を一人の人間として見て感動したのか。私は前者で感動していたと思うのです。これが「無意識の差別意識」なんだとこの番組は気づかせてくれました。

本年度も皆様に色々な気づきのヒントになるような話題を提供したいと思います。皆様も「これっておかしいよね」を見つけたら教えて下さい。（Ｆ）

「青い目、茶色い目」50年前の差別実験授業から
～教室は目の色で分けられた～

過日、YouTubeで「青い目、茶色い目」～教室は目の色で分けられた～と題する、実験授業を記録した映画を見る機会を得た。

これは53年前の1968年4月に行われたアメリカ中西部のアイオワ州の小学校での人種差別についての実験授業だ。

「青い目の子はみんな良い子です。青い目の人は5分余計に遊んで良いですよ」、「茶色い目の子は水飲み場を使わないこと。なぜなら茶色い目の子はダメな子だからです」と授業が始まる。

白人の子供たちだけが集まるクラスで、青い目を持つ子供は優れ、茶色の目の子供は劣っていると決めて学校生活を過ごさせた。

当時、3年生を受け持つジェーン・エリオット先生は、常に「子供たちを差別意識というウィルスから守りたい」と思い続けており、キング牧師暗殺事件を受け、日頃の思いを実行することにした。　差別される側の気持ちを実際に体験し、子供たちの人種差別に対する考え方を変えさせることを目的としたものです。

授業は、まず、エリオット先生が子どもに黒人やネイティブアメリカンへの差別の実態を子どもに聞いた。子供たちは一生懸命、持っている知識を駆使して理解していることを話す。

その後、突然エリオット先生は子供たちに宣言する。「先生は青い目です。青い目の人はいい人だとしましょう」。茶色の目の子供たちには、黒い襟をつけさせ、青い目が優位だと区別した。

すると、青い目の子供たちの行動が変わり始めた。「青い目の子は茶色い目の子と遊んではいけないですよ」。言われた茶色い目の子は「何もする気がしないよ」とうつむく。

昼休みには「茶色い目」と言われた子供が青い目の子と喧嘩した。なぜ殴ったのかエリオット先生に聞かれた子供は、「バカと呼ばれたような気分だったから」。すっきりしたかと聞かれても子供は首を振るだけで、言葉が見つからない。

今度は、青い目の子に「昨日まではそういう言葉を使っていなかったじゃない。なぜ『茶色い目』と言ったの？」そう聞くと、「茶色い目だから」と子供が答える。そして別の子が「この（茶色い目を表す）襟をからかったのさ」と声をあげた。

青い目が「優位」とされた翌日には、「実は、間違っていました。茶色い目の人が本当は偉いのです」と、子供たちを逆の立場に置かせた。

先生の指示により、茶色い目の子供は嬉々とした表情で黒い襟を青い目の子につける。青い目の子は戸惑いの表情を見せた。

この実験から、

①主観的な差異は、仲の良かった生徒たちの間であっても、支配的な集団が、下位と認定された人たちの上位に立ち、支配する構図を作る社会の仕組みが形成されるのを示唆している。

②異なった身体的特徴に優劣をつけた瞬間から差別がはじまる。

③被差別側の気持ちは、自分が体験してみるまで分からないんだとの声も。

④実験授業の結果「優れている」とされているときにテストの点数が最高で、「劣っている」とされたときに最低であることもわかった。

⑤エリオット先生は「普段、子供たちはお互いに優しく接し、協力し合い、仲良くしていました。ですが、優位のグループに所属すると途端に、突然、傲慢になり、差別的になり、敵意をむき出しにしたことには衝撃を覚えました。」と語っています。

それから16年後、大人になった生徒たちが集まりエリオット先生と一緒に、当時の実験授業の映像を見る場面です。そのとき、どんな気持ちだったのか、なぜそのような発言をしたのか、またその後の人生において、この授業で学んだことがどのような場面でいかされたか、などを教師とともに語り合う場面には、この実験授業が生徒の成長に良い結果をもたらしてくれたことに安堵しました。　今では、こうした実験は、子供達に強いストレスを与える可能性があることから許されない授業なのでしょうが、久しぶりにこの記録映画に見入ってしまいました。

ご興味を持たれた方は、YouTubeから検索しご覧ください。（H）

（お断り）内容の一部は「ハフポスト日本版」の記事を参考にしました。

コロナ禍の思い

昨年から新型コロナウィルス感染症がまん延し、世の中が「コロナ禍」という言葉が、まかり通る世になった今日この頃中日新聞のコラムが目につき読んでみました。

「波の詩」というコーナーで「連休中の再会」という題目でした。５月連休中に高校時代の友人と再会したことが書かれていました。このころは、外出自粛で画面越しの”再会”をしオンラインでの近況報告を語り合った話でした。

懐かしさもあり２時間近くもいろいろな友人たちと話し合い、最後にそれでもやっぱり「また合いたいね」と言葉が出たそうです。本当の意味での再会を約束し合った。とありました。

また、違う日の題目で、「コロナの影」では、ある新聞記者の方が東京五輪の聖火リレーが県内を巡る前、新型コロナウィルスに感染した家族を持つ男性ランナーを取材したそうで、男性はランナー当選を喜び「身近な人の感染を経験し家族や友人の大切さを実感した。感謝の気持ちを込めて走りたい」と話したそうです。

しかし、聖火リレー当日、男性の家族から「家族の感染が広く知られてしまうのは避けたい。そっとしておいてほしい」と連絡があった。感染した家族は医療従事者。医療現場での感染だった。家族を守りたいという気持ちを考え記事の掲載はなくなったそうです。

喜ばしい晴れの舞台でもコロナの影を感じ悲しくなった。とありました。

そしてある日、ネットである中学校で、「コロナ禍」の思いを「五七五」で表現しようと記事があり、ちょっと見てみると**「本当の　当たり前って　なんだろう」　「母さんの　料理がコロナで　美味（うま）くなる」　「近づけぬ　机の上は　課題密」　「新学期　今か今かと　待ちぼうけ」　「自粛中　話す相手は　ぬいぐるみ」**と子供たちの思いがよく表現されていました。

今、コロナ禍の思いとして、新型コロナウィルスワクチンの円滑な接種が進み、東京オリンピック・パラリンピックの開催が無事に出来、東京にいる孫の運動会に応援しに行けるように、新型コロナウィルス感染症の早い終息を願いながらこの原稿を書いています。　　（Ｓ）

同推くんコラム

新型コロナウィルスワクチン接種体験記

２０２１年６月２０日　日曜日、海蔵小学校で第１回目の新型コロナウィルスワクチン接種を受けました。予約を取るのもテレビニュースや新聞で見るようにやはり苦労をしました。電話は惨敗！　全然通じません。ネット予約になりました。（恥ずかしながらネットには慣れていないので、娘に助けてもらって出来ました。ああ大変！昭和生まれには大仕事です。）

初めての体験で前日から少し緊張しています。予防接種なんて何十年振りでしょうか？　インフルエンザの予防接種もせずに、これまで生きてきました。前日は雨が降っていましたが当日は良いお天気！　家を出る前にもう一度持ち物点検！　接種券OK問診表OK　免許証（身分証明書）OK　いざ出発です。自宅からは歩いて行きました。私は11時からです。すでに、たくさんの人達で一杯です。受付をして体温チェック、医師の問診を受けてからいよいよワクチン接種です。前の人を見ていると結構「ブスリ！！」と言う感じで注射器を刺していて　「ああ痛そう！」と思う間もなく私も「ブスリ！！」です。

あっという間に終わりました。その後、１５分間の経過観察です。１５分　結構長かったです。

その間、医療従事者の方の活躍を拝見させていただきました。皆さまのお陰です。ありがとうございます。その後、無事帰宅しました。

３時間ぐらいたった頃、段々注射したところを中心に腕が痛く熱くなってきました。

発熱はありません。吐き気もなく嘔吐もなく順調です。念の為、夜は早めに休みます。

腕を下にして横向きに寝ると痛くてたまりません。ずっと仰向けで寝て何とか一晩過ごしました。翌朝も腕だけ熱っぽく痛さは治りません。初めての経験なので、これが正常範囲の痛さなのかどうかわからず少し不安ですが、とりあえず発熱はないので様子を見ます。

仕事にも普通に行きました。お昼頃にはだんだん治ってきました。２日目はいつも通りになりました。何とか私は無事１回目は終了しました。

最近ワクチン接種が進むにつれ、自らの意志でワクチンを打たない人、ワクチンを打てない人（アレルギーがあったり、病気の為）に対する差別、中傷が増えているそうです。具体的に言うと医療従事者や、不特定多数の人を相手にするサービス従事者がワクチンを打たないと、仕事をさせないと暗に仄めかされたりと言う事があるそうです。こんな差別、偏見、誹謗の話を聞くと本当に悲しくなります。

日本では自分の意志でワクチン接種の有無を認められているので個人の意志は尊重されるべきだと思っています。

コロナの終息を切に願っています。

（O）

海蔵地区の皆さまへ

地区懇談会の中止のお知らせ

今年7月16日（金）、8月20日（金）及び9月17日（金）に開催を計画していました地区懇談会につきまして、昨年同様、次のとおり中止させていただく事にしましたのでお知らせします。

新型コロナウイルス感染予防及び拡散防止の観点から、６月役員会において協議をいたしました結果、参加者の皆さまならびにスタッフの健康および安全を最優先に考慮し、開催を中止させていただくことになりました。

また、今年度中における地区懇談会の振り替え実施に関しましては、予定をしていませんので、ご了知をお願いします。

差別のない社会をつくろう

障害者差別解消法　（平成28年4月1日施行）

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」

障がいがあることを理由にして、差別することを禁止しています。
また、障がいのある人から、「こんなことをしてほしい」などと求められたときには、状況に応じて配慮の提供が必要です。

障がいのある人もない人も、一緒に安心して暮らせる社会をつくりましょう。

ヘイトスピーチ解消法　（平成28年6月3日施行）

「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」

特定の民族や国籍の人びとを社会から排除しようとする差別的な言葉や行動を「ヘイトスピーチ」といい、人を大きく傷つけるもので決して許されません。

ヘイトスピーチをなくす必要性を一人ひとりが理解し、ヘイトスピーチのない社会をつくりましょう。

部落差別解消推進法　（平成28年12月16日施行）

「部落差別の解消の推進に関する法律」

いまなお部落差別が残っており、インターネットなどが便利になっている中で、部落差別に関する状況の変化が起こっていることをふまえ、この法律が制定されました。

日本国憲法では、すべての人に基本的人権を保障しています。

わたしたち一人ひとりが「部落差別は許されない」ことを理解し、部落差別のない社会をつくりましょう。

◎同推くんのバックナンバーは、『かいぞう地区』のホームページからご覧いただけます。
http://www.kaizotiku.org/